「いわての復興教育推進事業（交流学習スクール）」成果報告書

学校名：岩手県立宮古商業高等学校

Ⅰ　事業の概要（地域の実情含む）

宮古市は東日本大震災による甚大な被害を受けながらも、地域防災拠点となる「イーストピアみやこ」のオープンや、三陸沿岸道路の整備などの取り組みを受け、震災以前よりも活気と魅力に溢れたまちづくりに向けて歩みを進めている。また、ラグビーワールドカップ 2019 の公認チームのキャンプ地の一つにも選ばれ、大型外国クルーズ船の寄港地となるなど世界から注目される機会も増えている。

しかし、令和元年に発生した台風 19 号によって、一度は全線運行を再開した三陸鉄道が再び一部で運行不可能の状況に余儀なくされ、また新たな観光および物流の交流ルートとして期待された「宮古－室蘭フェリー」が休止となるなど、現状は決してやさしいものではない。そのような中、本校は地域に根ざした実業高校として社会で幅広く活用する人材の育成を目指し、地域を盛り上げるために産学官と連携した様々な事業に継続して取り組んでいく必要があると考える。

〔本校における今年度の事業内容〕

1　まちづくり学習（ワークショップ）
2　実地研修（盛岡駅ビルフェザン）
3　外部講師を招聘しての接客講座
4　模擬株式会社「宮商デパート」での出店協力

Ⅱ　取組の概要

1　まちづくり学習会

第１回　令和元年　7 月 17 日（水）3 校時～4 校時
第２回　令和元年　8 月 21 日（水）3 校時～4 校時
第３回　令和元年　9 月 12 日（木）1 校時～6 校時
第４回　令和元年 11 月 21 日（木）2 校時～4 校時
第５回　令和元年 12 月　5 日（木）2 校時～4 校時
第６回　令和元年 12 月 19 日（木）2 校時～4 校時
第７回　令和２年　2 月 20 日（木）2 校時～4 校時
研究成果発表会　令和２年３月 20 日（金）〔実施予定〕
イーストピアみやこ　多目的ホール

2　実地研修

（1）場　所：盛岡駅ビルフェザン
（2）内　容：事業説明、館内見学
フィールドワーク、発表会
（3）参加者：宮商デパート社長１名　副社長２名
宮商デパート店長　　25 名
引率教員　2 名

3　外部講師を招聘しての接客講座①

（1）場　所：本校　第１体育館
（2）講　師：株式会社アダストリア
ＬＯＷＲＹＳＦＡＲＭ
盛岡フェザン店　店長　高村暁穂　氏
（3）内　容：講演「お客様と心でつながる接客」
（4）参加者：本校生徒 388 名　教職員 40 名

4　外部講師を招聘しての接客講座②

（1）場　所：本校　第１体育館
（2）講　師：株式会社アダストリア
ＬＯＷＲＹＳＦＡＲＭ
盛岡フェザン店　店長　高村暁穂　氏
（3）内　容：講演「マーチャンダイズアプローチの手法について」
グループワーク
（4）参加者：本校生徒 388 名　教職員 40 名

5　模擬株式会社「宮商デパート」共同出店

（1）場　所：本校　第１体育館
（2）内　容：ござえんちゃハウス（販売活動）
（3）参加者：水沢商業高校担当者

Ⅲ　取組の成果と課題

1　まちづくり学習会

宮古市の都市計画審議会委員である岩手県立大学総合政策学部宇佐美誠史准教授と岩手県立大学に通う学生を招いての学習会を月１回程度（計７回）実施し、震災以降の宮古市の「まちづくり」について学びを深めた。目的は震災後の地域創生の在り方や地元地域の活性化について生徒自身が学ぶことにある。

まずは地域の現状と生徒自身が考える諸課題を挙げ、研究テーマを設定することから学習会を始めた。テーマ決定の中で、「地域の振興」と「観光」を関連づけて考える班が多く、観光分野に関する興味・関心が高いことが分かった。一方、地域の現状について理解が浅い部分があり、潜在化された観光資源の存在などに目を向け、さらに理解を深める時間が必要であることがわかった。

具体的な取り組みとしては、市内での現地調査を行い、生徒自身が地域の実情を知り、地域の振興や活性化について興味を持ちながら主体的に取り組むことができるよう展開を行った。その結果、インフラ整備や交通手段においても、高校生の視点で改善策を考えることができたことは成果の一つであった。アンケートや聞き取りの結果をまとめた後、中間発表会の実施を行う予定である。高校生が考える「提言」について宮古市役所や民間企業などの外部機関からアドバイスをいただき、さらに内容を深化させることで、将来のまちづくりに高校生が参画していく仕組みを作りたい。

今年度の実施の内容については下記のとおりである。

回数	内　容
第１回	ＳＤＧｓについての学習 グループ作り、個人で調べたことの共有
第２回	グループワーク　メインテーマ決め ①公共交通の利用促進 ②末広町商店街の魅力増進 ③観光地へ人を呼び込む ④宮古市を若者が住み続けられるまちにする サブテーマ・現地調査での質問内容の検討
第３回	現地調査（宮古市内での聞き取り・アンケート） 宮古市役所、末広町商店街、宮古駅、魚菜市場、浄土ヶ浜、シートピアなあど、ゲストハウス、市内企業等
第４回	ＫＪ法・ブレーンストーミングを用いた分析 アンケート集計、発表資料の作成
第５回	パワーポイントの使用方法の説明
第６回	講演「末広町商店街での社会実験の成果と課題」 講師　宮古市役所都市計画課 管理計画主任　平井　純　氏 グループごとの発表、講師からの講評
第７回	プレゼンテーションの作成、発表準備

現地調査
（まちづくり学習会）

実地研修
（盛岡駅ビルフェザン）

２　実地研修

東日本大震災後に沿岸地域との協働プロジェクトに取り組む盛岡駅ビルフェザンでの実地研修を実施した。目的は接客技術の向上や売場のレイアウト設計、商品知識の習得である。最初に各売り場の見学やフィールドワークを行い、プロの販売員の姿から多くの刺激を受けた。その後、グループ活動を行い、各テナントが抱える課題について共有し、解決の方法について協議を行った。各班からの発表後に助言を受けることで、リーダーの行動が全体にもたらす影響について学ぶ機会となり、貴重な体験となった。また、同日において副店長を対象とした大槌町での実地研修を予定していたが、大雨による避難勧告の発令により実施が困難なことから中止となった。

３　外部講師による接客講習講座①

９月 18 日（水）の５校時「総合的な学習の時間」において株式会社アダストリア盛岡フェザン店店長の高村様をお招きし、接客講習講座を開催した。「お客様と心でつながる」を演題に、幅広い年齢層のお客様に対応することを念頭に、お客様との接し方について学ぶ機会となった。その結果、一人ひとりが販売員としての心構えを学び、接客に対する意欲を高めることができた。

４　外部講師による接客講習講座②

10 月２日（水）に２回目の接客講習講座を実施した。講師の髙村様からはマーチャンダイズアプローチの手法について全体指導をいただいた。その後グループでマーチャンダイズアプローチの手法を体験し、取扱商品のセールスポイントと魅力を訴求する手法について学んだ。

５　模擬株式会社「宮商デパート」での出店協力

10 月 20 日（日）に水沢商業高校の生徒に宮商デパートでの販売活動に協力いただいた。第１体育館内では「ござえんちゃハウス」を出店していただき、企業と協力し開発した商品や奥州市や県南地域の特産品などの販売活動を行った。共に活動する中で、宮商デパート実行委員を中心に交流が生まれ、協力して取り組む姿勢がみられた。当初は２日間の出店予定であったが、大雨警報発令による避難勧告が出されたことから、１日のみの営業となった。改めて災害に備えることの大切さや防災の意識を高めることの必要性を痛感した販売活動となった。